

## 第3回アウトバウンド検討会 議事要旨

### ○とりまとめ案全般について

- ・これまで全3回の検討会で有意義な議論ができ、「とりまとめ案」に関しても、これまでの検討内容が過不足なくまとめられており、異議はない。
- ・具体的な動きは今後の課題であるが、優先順位をつけて、取りかかりやすいものから、具体的な形にしていけばいい。

### ○推進体制について

- ・今後の事業推進にあたっては、一貫性、継続性をもって取り組むことが重要である。
- ・若いうちに海外旅行を経験すると、将来リピートする確率が上がることはデータで表れており、大学、高等学校だけでなく小・中学校のうちから海外旅行に触れる機会を増やす必要がある。
- ・今後の事業実施にあたっては、評価指標の設定が欠かせない視点で、目標に届いていなければ要因分析を行い、フィードバックするような体制が必要。
- ・インバウンドは日本への経済効果が高く、みんなで取り組みやすい案件である一方、アウトバウンドは経済効果がそれほど大きくなく、多くの人を取り込んでいくことは困難であり、だからこそ、推進体制が重要となる。
- ・プラットフォームについては、福岡空港利活用推進協議会など空港をとりまく組織がすでにあるため、今後、それらとの関係を整理する必要がある。
- ・今後プラットフォームを設置することになると思うが、その設置にあたり、誰が核となって動かしていくのか、とりまとめ役をある程度決めておいた方がいい。

### 【事務局補足】

- ・プラットフォームの核として、空港関係者である福岡市、福岡空港利活用推進協議会、福岡国際空港(株)、航空会社を想定している。
- ・できる限り早く関係者と協議を進め、核となる団体を決めていきたいと考えているが、まずは福岡市が中心となって動かしていく。

## ○その他

- ・30年後の福岡空港・九州の空港のあり方を考えると、九州における24時間空港の必要性について検討を行う必要がある、このことを検討会の「とりまとめ」に記載できないか。
- ・アウトバウンドの促進として、24時間空港が必要と結論付けられれば可能であるが、これまでの検討会の中で議論されていない案件であり「とりまとめ」として記載するには、もう少し検討が必要。